

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>地域創生及び雇用促進に向けて、家庭・地域社会及び関係機関との連携を図り、自ら課題を発見し解決する能力を備えた、地域の未来を拓く水産・海洋のスペシャリストを育成する。</p>	<p><b>（成果）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>進路について、就職では、16年連続内定率100%、進学では、第一志望合格率が90.7%に上るとともに、国公立大学に25年連続の合格となった。</li> <li>質の高い授業（実習）と向上心が、全国初となる全校大会3冠（カッターレース大会 2連覇、食品技能コンテスト 総合優勝、生徒研究発表大会 最優秀賞）につながるとともに、「京都大学アカデミックデイ2017」に、高校生として唯一の出場を果たすなど全国規模での活躍が続いた。</li> <li>資格取得では、マリンマイスター顕彰制度において、上位を独占するとともに、全国最高点を収めた。 京都府教育委員会教育長表彰の対象生徒が88.5%、総数は939件に達し、専門教育を推進する力になるとともに、生徒の学習意欲を向上させた。</li> <li>食品経済コースが開発した鯖缶「京の鯖」が高い評価を受け、1年間の出荷が37,056缶となった。</li> <li>部活動加入率が99%という府内でも際立つ水準を維持し、国際大会出場を含め、全国・近畿レベルの大会に出場した生徒は延べ120人（全校生徒比2.2人に1人）に上り、高い目標を設定し、達成に向けて切磋琢磨する文化を根付かせることができた。</li> <li>ボランティア活動に積極的に取り組んでおり、昨年度、105回の活動に延べ6,826人が参加し、豊かな人間性を育むとともに、地域の活性化に貢献した。</li> <li>前期1.77倍、中期選抜1.41倍という高倍率となり、昨年度に続き、教育活動が評価を受けるとともに、広報活動が奏効した。</li> <li>HPの充実を図り、アクセス数が過去最多の148万件超（昨年度比1.5倍超）となり教育活動を広範囲に発信することができた。</li> <li>テレビ放映25回、ラジオ放送7回、新聞等掲載123回と、取材が過去最多となり、生徒募集の力となった。</li> <li>キャリアプランニング・サポート（小中高連携事業）に2,675人、コラボ推進プログラム（京都府立青少年海洋センター及び丹後海と星の見える丘公園利用者対象の事業）に90人、出前授業に359人の児童・生徒が参加し、キャリア教育の一環として水産・海洋に関する理解を深めた。</li> <li>教職員の資質・能力の向上の観点から、公開授業の活性化、他校への授業見学、予備校教員セミナーへの参加等に意欲的に取り組み、授業力向上に対する意識を高めることができた。</li> <li>海洋プロジェクト（体系的な進路に係る学習及び指導）を通して組織的な指導を行い、学年全体の学力や意識が向上し、府立高校実力テストにおいて高い伸び率を見せた。</li> </ol>	<p><b>本年度学校経営の重点（短期経営目標）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>学力向上と希望進路の実現</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>徹底した教材研究により授業（実習）を改善するとともに、海洋プロジェクトにより「背伸びする進路」を目標として掲げさせる。</li> <li>早期から指導を行い、多分掌が関わるなか、学力に課題がある生徒に対して支援の余地を残さない。</li> <li>学習する「習性」を身に付けさせ、安定して学習と向き合う生徒を育む。</li> <li>新学習指導要領が重視する学力観に基づき、大学入学共通テストに向けた指導及び多面的評価に取り組む。</li> </ol> </li> <li><b>基本的な生活習慣の定着</b> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>規範意識の徹底</b> 生徒指導に対する基準を共有し、一貫した指導体制の確立を図るとともに、課題のある生徒に対して指導の余地を残さない。</li> <li><b>挨拶・マナーの徹底</b> 日常の学校生活を「面接試験」の意識で過ごすことにより、「いつ」「どこでも」「誰に対しても」挨拶できる生徒を育てる。</li> <li><b>下宿生、寮生に対する指導の徹底</b> 下宿管理者と連携し、多様な指導を通して下宿生の自立支援を行う。寮生に、常に模範生としての言動を心がけさせる。</li> </ol> </li> <li><b>心の育成</b> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>人権意識の育成</b> 指導シラバスに則り、体系的に全体指導を行うとともに、突発的な事象に対して、個々の内面に迫る指導を行う。</li> <li><b>自己有用感の育成</b> 自己有用感の育成に向け、「居場所」と「出番」を意識した教育活動を展開するとともに、日常の声かけを重視する。</li> <li><b>主体性の育成</b> 生きる真の力として主体性を重視し、自らの意志で主体的に行動し、さまざまなことに積極的に挑戦する逞しさを育む。</li> <li><b>「目的」意識の育成</b> 諸活動の「目標」の先にある「目的」を認識させ、人として確かな成長につなげる。</li> <li><b>思考力・表現力・集中力の育成</b> 読書活動の推進を通してことばの力を向上させ、生涯にわたって豊かな人生を歩む礎を築く。</li> </ol> </li> <li><b>さらなる高みを目指す専門教育の推進</b> 常軌を逸した発想力と想定外への対処力により、社会に埋もれた研究の原石を発掘し、地域に新たな価値を創出する。</li> <li><b>安心・安全の徹底</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>命と隣り合わせの実習が多いため、常に緊張感を持って実習に臨むとともに、点検・確認の徹底を図る。</li> <li>自転車通学における交通ルールへの遵守、安全第一を徹底する。</li> </ol> </li> <li><b>社会情勢の変化に対応した広報活動</b> 生徒数減少の中、専門学科の利点を前面に打ち出すとともに、他府県への広報を強化し、生徒募集において確かな結果を残す。</li> <li><b>同僚性の推進</b> OJTの観点から、学科・コース、教科、分掌内において同僚性をさらに推進し、「チーム海洋」として資質・能力の向上を図る。</li> <li><b>外部機関との連携</b> 水産・海洋関連産業や外部機関との連携をさらに推進し、最先端の分野に触れるとともに、地域の活性化や雇用創出に貢献する。</li> </ol>
<p>前年度の成果と課題（続）</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>キャリアプランニング・サポート（小中高連携事業）に2,675人、コラボ推進プログラム（京都府立青少年海洋センター及び丹後海と星の見える丘公園利用者対象の事業）に90人、出前授業に359人の児童・生徒が参加し、キャリア教育の一環として水産・海洋に関する理解を深めた。</li> <li>教職員の資質・能力の向上の観点から、公開授業の活性化、他校への授業見学、予備校教員セミナーへの参加等に意欲的に取り組み、授業力向上に対する意識を高めることができた。</li> <li>海洋プロジェクト（体系的な進路に係る学習及び指導）を通して組織的な指導を行い、学年全体の学力や意識が向上し、府立高校実力テストにおいて高い伸び率を見せた。</li> </ol>	
<p>本年度学校経営の重点（続）</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>家庭、地域との連絡及び連携の強化 ホームページのメニュー「お知らせ」に、生徒への連絡事項、配布プリント等を掲載し、本校教育に対する理解、協力を得る。</li> <li>働き方改革の推進 働き方改革の理念に則り、生徒の多様化に対応できる、豊かな資質を育む時間確保に努める。</li> <li>日本海南部地区水産高等学校水産教育研究協議等の成功 本校が主管校となって実施する事業を成功に導く。</li> </ol>	
	<p><b>（課題）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「生徒指導アンケート」を導入するなど、規範（人権）意識の高揚を図り、指導事象が減少したが、全生徒の1/3の下宿生が、指導事象の半分を占めている。</li> <li>学校外において、海洋生として自覚ある言動が維持できない弱さを見せる生徒がいる。</li> <li>多様な生徒が入学してくる現状を踏まえ、進級及び進路保障の観点から指導体制を強化するとともに、指導状況を共有する。</li> <li>3年次2学期、進路が決定した後、学習意欲を低下させ、成績を下げる生徒が見られた。</li> <li>主体的・対話的で深い学びに係る研修への参加を促したが、手法や効果等の面で課題が見え、さらに研究を重ねていく。</li> </ol>	